



36 鳥井峠から見た飯豊山



銚子の口



飯豊山と阿賀川



34 宝川宿・高砂屋



26 根折神社



18 西光寺



1 東松峠から見た会津盆地



31 男滝・女滝

31 女滝



31 男滝



16 大山祇神社道標

越後街道



14 野澤宿



7 ネズミ岩



3 別茶屋跡

西会津  
越後街道ものがたり

新潟と会津を結ぶ重要な街道、越後街道。そこを歩きかう人々、宿場町で生活する人々の歴史が今もなお残っています。



8 雷神社



7 若草石(グリーンタフ)採石跡

ネズミ岩

5 大畑の一里塚跡

3 軽沢・柳津別れ

1 東松峠(茶屋跡)

2 軽沢間宿

4 大畑の茶屋跡

6 ガラメキ橋

甲石

10 徳蔵橋

11 砂子坂

12 二枚橋

13 諏方神社前の一里塚

9 縄沢

本海壇

諏方神社

野澤宿

新田

芝草

15 新田

17 芹沼の一里塚跡

16 大山祇神社道標

17 芹沼の一里塚跡

新村

阿賀川

安座川

田沢川

長谷川

不動川

天屋 至 会津若松  
本名 至 会津若松



# 西会津 越後街道ものがたり

## ① 束松峠(茶屋跡)

昔、峠の頂きに三株を束ねたような松があったので束松といわれ、峠にその名がついた。寛永年間(1624~44)若松城修復資材を安座の肝煎二瓶七左衛門が運び出した道が、後に整備されて峠道となった。寛永4年(1792)片門・本名の人が茶屋を2軒出し、小鳥の焼き鳥が名物であった。

## ② 軽沢間宿

野澤宿と片門宿の中間で、旅人が束松峠に上る時や下った時休憩する宿で、急病など特別の場合を除いて原則宿泊は認められていなかった。野澤組。

## ③ 軽沢・柳津別れ

軽沢方面と柳津方面の分岐点で、江戸時代も柳津へ行く道があった。明治に三方道路が藤峠越えで開通すると、「別茶屋(わかれちやや)」と呼ばれた茶屋ができた。

## ④ 大畑の茶屋跡

甲石と軽沢の間に人家がなく冬など旅人が難儀したが、安永8年(1779)青坂の治兵衛が茶屋を開いて助けた。

## ⑤ 大畑の一里塚跡

不動川に架かるガラメキ橋の手前(大畑側)にあったが、国道改修時、埋積された。

## ⑥ ガラメキ橋

名前の由来は不明。いろいろな当て字が使われている。

## ⑦ 若草石(グリーンタフ)採石跡

2500万年前~1500万年前頃の海底火山噴出物でできた岩石。大正4・5年頃、新潟県の人「若草石」の名前で採掘した。手前の大きい岩塊はネズミ岩と呼ばれている。

## ⑧ 宵神社

「飛観音」とも呼ばれ、遠くから見ると観音様の姿が現れるが近づくと消え、子供の耳垂れを治すといわれた。神社前に八幡太郎義家の置き忘れた宵が岩になったという岩がある。

## ⑨ 縄沢

昔は「綱沢」と書いたが、天保年間(1645~48)将軍家の諱(いみな)を避けて「綱」を「縄」に変えた。縄は土地の言葉で「つな」ともいった。

## ⑩ 徳蔵橋

昔、徳蔵という和尚が、川を渡るのに難儀していた旅人を橋を架けて助けた。和尚の名をとって徳蔵橋という。

## ⑪ 砂子坂

本町の外れは段丘崖で坂になっていた。段丘層が軽石で砂っぽかったため、「砂子坂」の名がついたのであろうか。

## ⑫ 二枚橋

昔は段丘に深い谷が入り込み、橋が架かっていた。明治に三方道路ができた時、その橋のすぐ脇に三方道路用の橋ができ、二つの橋が並んでいた。「二枚橋」と呼ばれた。

## ⑬ 諏方神社前の一里塚

越後街道は諏方神社前を通過して、一里塚があった。明治に三方道路が作られた時、神社側の塚が壊された。その時、鉄鍬と手錠が出てきたという。

## ⑭ 野澤宿

元和6年(1620)野澤原町村が駅所になって現在の町型ができた。野澤本町村は初めは「馬継ぎ」の宿であったが、文化3年(1806)駅所となって原町村と合体し野澤宿が完成。野澤組。詳細は別紙『野澤宿歴史探訪マップ』を参照。

## ⑮ 新田

越後街道は安永の頃(1772~80)芝草村から端村新田に出て安座川を渡って(橋はなかった模様)芹沼村に入る最短ルートになった。

## ⑯ 大山祇神社道標

越後方面から来た大山祇神社参拝の人々は、野澤宿に入らずまっすぐ大山祇神社に向かった。大山祇神社への道標で、元治元(1864)北越水原の講が建てたようである。

## ⑰ 芹沼の一里塚跡

JR磐越西線踏切近くの山地斜面の所に、一里塚といわれている土塊がある。

## ⑱ 西光寺

寺宝に元和7年(1621)京都妙心寺の僧逸伝が賛を加えた国重要文化財「紙本着色蒲生氏郷像」がある。浄土宗寺院。

## ⑲ 上野尻宿

元は南にあったが延宝2年(1674)現在地に移った。町割は直線的で屋敷割の奥行きも均等で、比較的新しく開かれた宿場。江戸時代後半、舟運の川湊が上野尻宿の方に移動してくると街道荷に舟荷が加わり、宿場は越後街道宿場の中で5本の指に入るにぎわいを見せた。野澤組。

## ⑳ 野尻郡役所跡

荒井林に寛政3年(1791)~文政2年(1819)野澤・山三郷・津川の代官所を統括する郡役所が置かれた。

## ㉑ 蟹沢川

上野尻宿と下野尻宿の間にある沢でかつては現在よりずっと深かった。両宿場がきわめて近いのに一つの宿場にならなかったのは、この深い沢があったためと考えられる。

## ㉒ 下野尻宿

諏訪神社前・馬場先周辺・大下野尻・中村などに点在していた集落を移転させて下野尻宿ができた。成立年代は不明だが、古いタイプの町割。街道と川湊の要衝の地であったが、川湊が大水で被害を受け上野尻宿の方へ移動するとにぎわいを失った。野澤組。

## ㉓ 慈眼寺と南光院

共に開基年代は不明。慈眼寺は東黒川南町分の成願寺五世鉄額が、慶安の頃再興。臨濟宗。樹齢500年ともいわれる大イチョウがある。南光院は慈眼寺の東で、博労町自在院末弟慶住が慶長の頃再興。廃寺となり地藏尊などは慈眼寺に移された。

## ㉔ 中島

廻米(換金用年貢米)を運ぶ舟運の中心的川湊を中島という。当初は大下野尻付近にあったが、大水で湊に支障が出ると旧群岡中学校東の荒井林・JR上野尻駅東方に移動した。

## ㉕ 下野尻の一里塚

車峠麓の下野尻宿外れにあった。現在、跡表示石塔がある。

## ㉖ 根柢神社

車峠麓の根柢神社は大天神社や村中の各神を合祀し、明治元年に改称。神社名は大変困難な峠開削が岩根を裂くばかりの猛烈な根柢神の力を借りてできたというのに由来しているであろう。

## ㉗ 緋荷杉跡

樹齢800年といわれた大杉が車峠登り口にあつて旅人の目印であった。昭和54年突風で支幹が倒れ、安全を考え主幹も倒す。現在、記念碑が建っている。

## ㉘ 古車坂

現車峠ができる前は、下野尻から川谷に出る道が現街道の北にあつて「古車坂(ふるくるまざか)」と呼ばれていたという。

## ㉙ 車峠(茶屋跡)

安座の肝煎二瓶七左衛門が、寛永年間(1624~44)若松城修復のための資材を運び出した道が整備され街道となった。峠には茶屋があつて、大名行列も休憩した。昔は峠からの見晴らしもよく、イザベラ・バードも絶賛した。車峠の名の由来は不明。

## ㉚ 古車沢

川谷から下野尻に向かって沢づたいに上る道があつて「古車沢(ふるくるまざわ)」と呼ばれていたという。

## ㉛ 男滝・女滝

鬼光頭川上流にある滝。玄武岩の柱状節理にできた滝で、川上に向かって右の垂直に落下する滝が男滝。左の岩肌を流れ落ちるのが女滝。昔、修験者の修行の場所であった。鬼光頭川に下るところに、オンパサマが祀られている。

## ㉜ 白坂宿

寛文7年(1667)頃、宿場として整備されたと思われる。小村であつたため、伝馬用の馬数を揃えるのに苦労した。川谷・屋敷・榎木平・熊沢・柞畑が端村であつたが、川谷を除いて文政3年(1820)屋敷村となった。海道組。

## ㉝ 宝川の一里塚

鬼光頭川左岸に片方だけ残っている。昔は田んぼの反対側にも一つあつた。

## ㉞ 宝川宿

古くから陸奥と越後を結ぶ道筋にあつて、両国の境界にあつたため、昔は境村といつた。宝川の名が改まったのは蒲生氏の頃と思われ、寛文7年(1667)頃、峠下の宿場として整備されたものと思われる。海道組。

## ㉟ 勝善寺

徳一開基と伝わる寺で、野澤如法寺の末寺。大和国猿沢池の辺りに住む水口八右衛門が堂舎を築いたという。会津と越後の境付近にある徳一開連のお寺の一つ。

## ㊱ 鳥井峠

陸奥と越後の境となる峠で、越後の方から来て峠に着くと、前方に飯豊山が神々しく現れる。昔、飯豊神社の一の鳥居が建っていたのが峠名の由来。



発行・お問い合わせ

にしあいづ観光交流協会

TEL:0241-48-1666

E-mail:nishiaizu-kanko@nct.ne.jp